



10月17日、ZOOMを用いたオンライン形式で『人工呼吸器等電源を必要とする医療的ケア児の災害対策』研修会を行いました。  
参加者は77名でした。

いまだからこそ災害に備えよう ～平素からのリスク管理と備えの提案～

講師：訪問看護ステーションエール 平田晶奈氏



【プロフィール】

訪問看護ステーション エール代表取締役/管理者/看護師/介護支援専門員/養護教諭

急性期大型病院勤務後、精神科、訪問看護ステーション勤務を経験し、岡山市に訪問看護ステーション「yell」を開設し代表取締役となる。また、研修会の講師も努め、幅広く活躍している。

『いまだから災害に備えよう～平素からのリスク管理と備えの提案～』という演題で、災害対策において心掛けていること、平時の取り組みの実際、西日本豪雨の際の取り組みなどのお話しをしてくださいました。災害対策について心掛けていることとして、以下の3つがとても印象に残りました。

- 油断せずとにかく備え続ける  
→災害対策を皆が忘れず備え続けられるように、定期的な情報発信をしている。
- 1人(1事業所)で完結しない  
→普段はゆるく広くつながっていて、ここぞ！という時にできる範囲でサポートし合う関係づくり。ただつながるだけでなく、平時から定期的に集まって、災害時の話をする機会を作っておく。
- 発災時に備えて“自助”トレーニング  
→発災時の初動は自助。まずは、自分・家族のことは自分たちで守る！という意識を根付かせる。

また、「20歳のALS男性のマンション7階からの避難訓練」「4歳医療的ケアが必要な児の避難訓練」を動画で視聴でき、避難するときの様子がよりリアルにイメージできました。実際に避難訓練を行うことで、問題点も明確になり、いざというときに慌てず安全に避難できるのだということがわかりました。

災害対策ノート

災害で広範囲かつ長時間の停電や断水などライフラインに障害が生じた際、医療的ケアが必要なご家庭で自分たちで自分たちを守るため(自助)に「災害時どのように対応するか」を作成し慌てずに命を守る行動がとれるための準備として作成しました。

使い方

- ①日頃支援に入っている訪問看護師さんやヘルパーさんなどの専門職の方、使用している機器の業者へ確認しながらノートを作成しましょう。
- ②対応が必要な場合に備えて、協力し合えるようノートについて共有しましょう。
- ③成長とともに状況も変化します。適宜見直しを行いましょう。

『災害対策ノート』のデータは大分県難病相談・支援センターのホームページに掲載しています。

大分県難病相談・支援センター

検索

<http://nanbyo-o.server-shared.com/center.html>



アンケート結果

- ・避難訓練などリアルに聞いて学びが深かった。
- ・自助を意識してもらう事、細かな実践的な準備の支援、行動に起こすスピードの大切さを感じました。
- ・自分達も被災者となる事を念頭に置き、他事業所と力を合わせ利用者さん達のいち早い安全確保に努めていきたいと思ひます。
- ・家族に自助力と呼び掛けるだけでなく、実際に一緒に高めようと行動することが大事だと思ひました。
- ・「油断せずに、とにかく備え続けること」と言われた講師の言葉がすごく印象に残っています。
- ・日頃から外出にも家族の協力が必要なため、自宅での研修は参加しやすかったです。